

# 門司港 北九州

MOJIKOH RETRO



2 船だまりから見た門司港ホテル 設計 アルド・ロッシ



下関市と橋の門司大橋 両市共同でさまざまな楽しみを創出



3 豪華な様式の日門司市役所 (東 門司区役所)



4 ブルーウィングもじ 日本唯一の歩行者専用吊り橋



4 旧大坂商船門司支店 窓は灯台の役割も果たした

門司港は、関門海峡を隔て最も本州(山口県下関市)に近い位置にある。かつて、石炭の中継貿易、大陸貿易の基地として、大いに繁栄し、大正初期には、外国貿易の出入港船舶数で全国一の港となった。世界の港から異国の香りを集めた貨物船が、毎日のちつと波止場に横付けされ、これが、街の産業、商業を活性化し、同時に「西洋の賑りがする港町」を誕生させた。

しかし、太平洋戦争の終結による大陸貿易の衰退等で、港の機能が低下し、銀行や新聞社が移転する等、経済活動の機軸性が失われていった。

昭和六十年代に入り、ついにこの街の遺産である建築物の解体の危機が訪れた。このような中、誰もが「このまちを置きたい」「しかし「港を中心とする産業の復興で進む」とは難しい」と考えていた。では、どうするのが、街が考えた。そこで、生まれた構想が数々の歴史を刻んできた風光明媚な関門海峡、そして繁栄時代をしのびせる歴史的建造物(文化遺産)を活用し、新たな都市型観光拠点として再生するということがあった。この構想(門司港レトロ事業)は、市長が総合プロデュース役として始め

## わが街 わがまちづくり

た事業であるが、行政、地元住民、民間企業が連携し、熱き思いを持って、「わが街がわがまちづくり」に取り組んできた事業でもある。そして、約七年間の歳月を経て、個性的な顔を持つ歴史的建造物の保存活用にも成功し、平成七年三月観光地としてブランドオープンした。

それぞれの建物が、関門海峡という雄大な風景に引けを取らない堂々とした姿で街の中心に「ここ」と断言しており、これを引き立てる周りの空間が非常にゆったりとしている。このまちの雰囲気、観光地としての魅力となっている。

次に観光地として誕生した後、このまちづくりを支えてきた団体(門司港レトロ倶楽部)について紹介する。とは言え、あえて説明することもなく、門司港レトロとレトロ倶楽部は同じ位の知名度なのかもしれない。地域活動を続けていたまちづくり団体(八団体)を中心とする地元と北九州商工会議所などの民間団体、行政という構成で平成七年十二月に発足し、活動を続けている。活動目的は、門司港レトロ地区における観光振興及び地域の活性化であり、毎年、観光地の魅力アップのため様々なイベントを出し、論議し、ともに活動し、賑わい作りを努

## 歴史的な建物遺産を

めている。街、このまちが好きであり、歴史的建造物を誇りとしており、今後も、上質なまちづくりを目指している。

このように街と一体となったまちづくりにより、平成十四年には年間二百二十万人の観光客が訪れる、九州を代表する観光地として成長した。

ただし、観光地であるが、商業地のような賑わいが全くないのである。晴れた日には、非常に穏やかでゆったりとした空間を持ち、雨の日には人々に自然のぬくもりを伝える、そんな観光地なのである。日頃、ゲームセンターやショッピングを楽しむ若者にはやや物足りないうちかもしれない。なぜ、私が知っている限り、このレトロ地区の中には、プリクラやシューティング機などを見ることがほとんど無いのである。

このことは、観光客をもてなす施設や空間づくりが、または良好な住環境づくりももたらしているのである。朝早くや夕暮れ時に地元の方々が散歩、ウォーキングなどを気持ち良さそうに行っている姿を見るたび、我々が行っている観光振興は、これを基盤としたまちづくりでもあるのかなと感じている所である。

さて、今後の門司港レトロ地区

## 街の誇りとして甦らせる

区であるが、観光地としてのさらなる成長を促すべくと云々(笑)の質の良さが必要と考えている。

特に、平成十七年度末に新北九州空港が開港する予定であり、新たな観光ビジネスも生まれる。すでに、これに向け「関門海峡」を全国に通用するブランドに育てる新たな戦略に着手している。これは、対岸の下関市と連携した全国からの集客体制の構築を考えている。この戦略の一つ、昭和初期の趣を残す既存木造住宅地や界隈散策路へ観光客を誘導するなど、地元の住民と観光客が触れ合う空間を育てていくことをポイントに考えている。そしてこの取り組みが、観光客と地元の人々の交流を生み、さらに観光を中心とした活発な経済活動が芽生えてくることを期待している。

今後、かつての貿易港とは違う「観光地」という形で、九州における大陸の玄関都市となるよう、着実な観光振興、まちづくりを進めて行く予定である。

この街が再生する時、それは良好な住環境と自然豊かな空間を旅人と住民がゆったりと共有し、時間を楽しむことができれば、時間を楽しめる。

北九州市経済文化局  
門司港レトロ室 次長  
横矢 順二



1 國權友好記念館 1902年旅中興大連の東清鉄道オフィスを買収 中国・東アジアの文庫を展示